

開催年月日 2006年5月21日（日） 12：00～15：10
会議の名称 第2回 予防接種委員会
開催場所 ホテル新大阪 東口ステーションビル 401号室
出席者 永井崇雄、崎山 弘、寺田喜平、宮崎千明、藤岡雅司
会 計
支出 25,830円（会議室使用料 13,230円+昼食代 12,600円）
収入 7,500円（1,500円×5名分）
差引 18,330円

協議事項

- 1 今回の改正についてのパブリックコメントと今後の対応について
外来小児科学会独自のスタンスを表明しておくことができた。内容についても簡略適切である。
（小児科学会、小児保健協会のものは、接種漏れ者への対応について定期接種の扱いを要望していない）
小児科学会の「見解」については、厚労省自身が責任を外に転嫁するため必要であったのかもしれない。
- 2 MRワクチン実施状況調査の必要性和時期
感染症情報センターの調査と重ならないかどうか確認する。
ウェブ上で調査及び情報提供ができるシステムを構築する。
具体的な市町村名を挙げての対応の違いを公表するためにも、外来小児科学会会員からの情報提供に基づいた調査が必要である。
- 3 日本脳炎ワクチン要望書の扱い
今年度中の細胞培養ワクチンの認可はほぼ不可能である。
今秋における状況によっては、積極的勧奨差し控えの中止や細胞培養ワクチンの早期認可を外来小児科学会として要望することを今後検討する。
九州の会員に対し、ワクチン未接種の幼児の抗体価調査を行うことを提案する。
- 4 11月のワクチン学会シンポジウムに向けての論点整理
「予防接種の混乱にこたえる」と題したシンポジウム（または、パネルディスカッション）を予定している。

予定の演者（内容）として、庵原俊昭先生（総論）、横田俊平先生（ACIP）、永井崇雄先生（制度変更による現場への影響）、塚原太郎課長（予防接種制度の現状と課題）。

永井先生の発表内容の論点として、1.個別の問題点、2.わかりやすい制度に、3.社会に受け入れられる制度に、4.予防接種の目的、5.わが国が目指す予防接種の法体系は？の5点が提案された。

その他の問題点や課題として以下の点が指摘された。今後もメーリングリストで継続して意見交換を行う。

- ・ 予防接種実施におけるフィードバックが可能になる循環型システムの構築。
- ・ 国内からの風疹の排除を目指すためのキャッチアップ接種。
- ・ 同時接種を積極的に行えるような環境整備。
- ・ 健康保険での予防接種実施とPL法による健康被害救済体制。
- ・ 予防接種特区の実施。
- ・ 定期予防接種の範囲が制限されてきていることについての厚労省の見解。

5 教育、アドボカシー、診療、情報などの見地から活動できること
予防接種法の根本的な改正。

「やっぱり受けよう！予防接種」リーフレットの改訂。

旅行医学に対する啓発。海外旅行時の予防接種勧奨の法的規制。

6 その他

新ワクチン（H5N1インフルエンザワクチン、DTaP+IPV）の治験状況について。

7 次回開催日等について

9月10日（日）、17日（日）、18日（月祝）を候補としてメーリングリストで最終決定する。